

ワークショップ

3月後半（オンライン）～4月前半（市ヶ谷キャンパス）：全11回（予定）

コンセプチュアル／パフォーマンスティヴ

——我を忘れる身構えの体得へ

取得単位： なし

対象： 全学科全学年 *2024年3月時点で武蔵野美術大学に在籍している人
*とりわけ制作に行き詰まったり展示に気後れしたり自身の無能さに落ち込んだりしがちな人
*あるいは50-70年代の前衛芸術（コンセプチュアル・アート／フルクサス／ポストモダン・ダンス／偶然性の音楽など）やそれらに根ざした現代の実践に興味がある人

参加条件： 全日程と成果展への参加 *日程に授業が重なる人は参加できません。参加の際は授業予定を各自で確認のこと

日程（予定）： 3/20⊕ 21⊕ 23⊕ 27⊕ 28⊕ 30⊕ 各日 19:30～ @zoom *ほぼ毎回（気軽で即興的な）宿題・課題あり
4/6⊕ 7⊕ 13⊕ 各日 11:00～ @gallery αM

成果展： 4/13⊕～6/15⊕ @gallery αM *石川卓磨の企画によるシリーズ「開発の再開」の一環として奥村雄樹が組織する展覧会
*gallery αM（ギャラリー・アルファエム）は質の高い表現と可能性を有するアーティストと斬新な価値を発信できるキュレーターの活動の場として武蔵野美術大学が市ヶ谷キャンパスで運営する非営利ギャラリー

事前レクチャー

2月16日（金）18:00-19:30（予定）オンライン

これまでのプラクティスの展開や再展開と このたびのワークショップについて

内容：作家本人による自作紹介および上記WSの事前説明 *質問・相談コーナーあり

対象：全学科全学年 *WSに参加しない人もぜひ。国内外で活躍する作家の話を聞ける貴重な機会なので *レクチャー不参加でもWSに参加できます

どちらも詳しくは後日 Live Campus にて *問い合わせ：alpham@musabi.ac.jp



奥村雄樹 1978年青森生まれ。ブリュッセルとマーストリヒトを拠点にアーティスト／翻訳者として活動。2022年よりアントワープ王立美術アカデミー研究員。美術の歴史や体制を実験場として言語や記憶のポテンシャルを活用し偶然の出来事を組み込み現場の文脈を絡め取りながらアイデンティティの屈折や個人の輪郭や自我の貧窮から逃げ切るための方策をあれこれ試行する。主な展覧会に「136 Locations - 956 Intersections」（20 Albert Road / グラスゴー / 2024）「あいち 2022」（愛知芸術文化センター）「彼方の男、儚い資料体」（慶應義塾大学アート・センター / 東京 / 2019）「Na(me/am）」（Convent / ヘント / 2018）「奥村雄樹による高橋尚愛」（銀座メゾンエルメスフォーラム / 東京 / 2016）「Un-Scene III」（WIELS / ブリュッセル / 2015）「六本木クロッシング展 2013：アウト・オブ・ダウト」（森美術館 / 東京）など。ウィーンのSecessionで2025年2月に過去最大規模の個展が予定されている。

← 奥村雄樹《（ほぼほぼ）誰にでもバックストーリーがある》2023 京都芸術大学大学院グローバル・ゼミ「A Snowball's Chance in Heaven」展より